



薬剤の履歴管理が重視される時代。  
回数が少なくてすむアクタラは、うれしいね。

女満別町 原田博之さん(40歳)  
奥様と2人のお子さま、ご両親の6人家族。手がける作物はばれいしょ、  
てんさいが中心。総作付面積20ha



## しっかりふとらせてうちのばれいしょはおいしいぞ!

原田農場のばれいしょは、穫れたそばからコンテナに詰められ、船で広島県のポテトチップス加工工場へと送られる。あのパリッと香ばしいおいしさは、女満別の原田農場で生まれている。

「今シーズンのばれいしょは味がいい」と原田さん。

「中身はもう、入りすぎるくらい入ってますからね。うちは自然枯凋で、土の中でしっかりとふとらせてから掘る。ですからホクホク感を現すライマン度も17%近くまでいくんですよ。選外のばれいしょでも16%はありますね」

通常、ライマン度は13%くらいというから、原田さんのばれいしょがいかに品質がいいかわかるというものだ。



ただいま自慢の  
ばれいしょを収穫中。

## 散布回数を減らせるアクタラは人にもやさしいね。

例年、原田さんを悩ませるアブラムシは、昨年は少なめで、7月末と8月中ごろの2回の防除でこと足りた。しかし気温の高い年は4回ほどの防除が必要となる。

アクタラは、そんな多発年にこそ助かると、原田さん。

「アクタラは長く効きますからね。今は殺菌剤でも殺虫剤でも全部履歴を出すでしょう。残効性の高いアクタラなら、散布回数を減らせますから」

アクタラの使い勝手も気に入っている。

「粒状だから粉みたいにブワッと舞わないのがいいですよ。粉だとマスクしても目や鼻が大変で…。調製するときも散布するときもニオイが気にならないし、全体的に、作業者にやさしい剤だよ」

去年の台風では、原田さんの農場でも被害が出た。ばれいしょ畑から風で飛ばされた土に叩かれ、葉が真っ黒になってしまったてんさい畑もある。土をえぐられたばれいしょは、陽に当たって緑変してしまった。

「てんさいは黒くなるし、ばれいしょは、青くなるし(笑)。それでも減収とまではいかなかったのが幸いでした。まあ、台風がなければ豊作だったんだろうけど。自然相手ですからこれはしかたがない。そしてある意味、こんなふうに予測不能なところが、農業の魅力でもあるんですよ」ばれいしょを満載したコンテナの横で、ほがらかに笑う原田さんである。



シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワー-X 21階  
<http://www.syngenta.co.jp>

農業をご使用の際は、ご購入先、または当社ウェブサイトなどで最新の登録内容をご確認ください。

®はシンジェンタ社の登録商標 TMはシンジェンタ社の商標

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●薬剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器、空袋等は農場などに放置せず適切に処理してください。

※2005年4月6日現在の情報です。